

認知症は脳の神経細胞の障害により、脳の処理機能が低下する病気ですが、神経細胞を再生させたり、神経細胞が死ぬのを完全に防ぐ薬はまだ見つかっていません。アルツハイマー型認知症治療薬が本当に有効性なのかは国内でも、国外でも議論されています。



● では認知症患者さんに薬を出すのはどうしてでしょうか？

- ① 脳全体の活動が低下する場合 → 元気がなくなったり、意欲・やる気がなくなってしまう → 脳を活性化する薬によって少し気力が回復する可能性がある
- ② 脳の神経細胞の働きのバランスが崩れる → すぐ怒ったりイライラしたりするような症状 → 脳の活動を穏やかにしたり、神経活動のバランスを調節する薬が使われる
- ③ アルツハイマー病・レビー小体型認知症 → 病気の進行を遅くする薬がある

● 薬はどのくらい効くのでしょうか？

残念ながら現在使用されている薬には、根本的に認知症の進行を止める働きはなく、飲んでいても最終的には認知症は進行します。記憶障害や行動障害を劇的に改善させるほどの効果も期待できません。しかし、脳で生き残っている神経細胞を活性化させ、覚えたり考えたりする働きをある程度保つ可能性があります。日常生活に活気が出たり、イライラや不安を少なくすることによって生活の質を上げる効果も期待できます。



認知症は薬物治療よりも療養が大切な病気です。お薬はあくまで補助だと考え、生活環境やコミュニケーションを調整することが第一です。ご本人が困っていることを具体的にリストアップして、それぞれの問題点に対してサポートできることをご家族や介護スタッフと一緒に考えましょう。ご本人の負担を軽くし、不安を少なくするだけで気力やコミュニケーションの改善がみられ

ることも多いのです。失敗はできるだけ指摘せず、さりげなくサポートしましょう。ご本人のプライドや価値観を尊重し、笑顔で接するだけで症状は良くなります。

計算ドリルなどの脳トレーニングも一時的に認知機能が改善することはあります。しかし本人がやりたくないものを強制するのはよくありません。認知症の患者さんはいつも「できない」ことに傷ついているものです。良かれと思ってやったことでも、計算ドリルなどで失敗することに余計に焦ったり卑屈になったりしてしまうかもしれません。大切なのは本人が楽しいと思えることをやってもらうことです。

参考・和歌山県立医科大学附属病院 認知症疾患医療センター「認知症と薬の関係」
しんゆう調剤薬局